

## 第2回 全国都市緑化かわさきフェア基本計画懇談会 議事録

1 開催日時 令和3年10月18日（月）午後3時30分～午後5時00分

2 開催場所 川崎市役所 第3庁舎18階 大会議室

3 出席者

福田紀彦 川崎市長

### <懇談会委員>

池田航介 Perma Future 代表

今井伸之 川崎市造園建設業協同組合 副理事長

蕪木沙耶 令和3年成人式サポーターグループ

鈴木賢二 川崎商工会議所 専務理事

反町充宏 一般社団法人 川崎市商店街連合会 理事・青年部長

田代直輝 セレサ川崎農業協同組合 営農経済本部 販売対策部 都市農業振興課 課長代理

長井典子 川崎市立小学校長会 会長

萩原ひとみ 一般社団法人 川崎市観光協会 理事

涌井史郎 東京都市大学 特別教授

和城信行 神奈川新聞社 川崎総局長

渡辺広之 京都芸術大学芸術教養センター 客員教授

### <オブザーバー>

野村 亘 国土交通省 関東地方整備局 公園調整官

### <事務局>

磯田博和 川崎市建設緑政局長

木村博彦 川崎市建設緑政局緑政部担当部長

藤島直人 川崎市建設緑政局緑政部緑化フェア推進担当課長

- 4 内 容
- (1) 開 会
  - (2) 開会あいさつ
  - (3) 全国都市緑化かわさきフェア基本計画骨子（案）について
  - (4) 意見交換
  - (5) その他
  - (6) 閉 会

- 5 配布資料【資料1】全国都市緑化かわさきフェア基本計画骨子（案）概要版  
【資料2】全国都市緑化かわさきフェア基本計画骨子（案）  
【参考資料1】第1回懇談会における意見概要と対応  
【参考資料2】全国都市緑化かわさきフェア基本計画懇談会 委員名簿
  
- 6 公開・非公開の別 公開
  
- 7 傍聴人の人数 1名
  
- 8 発言記録 次のとおり

## 〔(1) 開会〕

### ○木村担当部長：

それでは、定刻になりましたので、ただいまから「第2回全国都市緑化かわさきフェア基本計画懇談会」を開催させていただきます。

本日は、大変お忙しい中、当懇談会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

私は、当懇談会の進行を務めさせていただきます、建設緑政局緑政部担当部長の木村でございます。よろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止への対応といたしまして、検温、手指消毒、マスク着用にご協力いただきありがとうございます。マスクを着用している関係で、若干、発言等お聞き苦しい場面もあろうかと存じますが、御理解いただきますようお願いいたします。

まず、議事に先立ちまして、本日の懇談会は、川崎市審議会等の公開に関する条例に基づき、公開とさせていただきます。

また、本日の会議録に個々の発言者氏名を記載することをあらかじめ御了解ください。

なお、本日の傍聴者は1名です。併せまして、事務局以外の本市職員も出席しておりますことを御了承ください。

それでは、会議に先立ちまして、資料の確認をさせていただきます。本日の次第、座席表に続きまして、

- ・資料1 A3よことじ 「全国都市緑化かわさきフェア基本計画骨子（案）概要版」
- ・資料2 A4たてとじ 「全国都市緑化かわさきフェア基本計画骨子（案）」
- ・参考資料1 A4よことじ 「第1回懇談会における意見概要と対応」
- ・参考資料2 A4たて 「全国都市緑化かわさきフェア基本計画懇談会 委員名簿」

を机上に配布させていただいております。

資料の不備などがございましたら、会議の途中でも構いませんので、事務局までお申出ください。よろしくお願いいたします。

それでは、次第2「開会」にあたりまして、福田市長より御挨拶申し上げます。福田市長、よろしくお願いいたします。

## 〔(2) 開会あいさつ〕

### ○福田市長：

皆様こんにちは。大変お忙しい中、本日は、御出席いただき、誠にありがとうございます。

前回、皆様から様々な御意見等をいただき、基本計画骨子案に組み込むもの、または今後の参考にさせていただくものなど整理しつつ、皆様の御意見を確実に踏まえて、検討してまいりました。

これから、本日の御意見等を受けて、骨子案を固め、パブリックコメント、そして年度内には基本計画骨子の策定という形で進めたいと思います。ぜひ、本日も貴重な御意見等いただければと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

○木村担当部長：

ありがとうございました。福田市長におきましては、引き続き、懇談会に御出席いただきますので、よろしくお願いたします。

【(3) 全国都市緑化かわさきフェア基本計画骨子(案)について】

(資料1の説明～省略～)

【(4) 意見交換】

○涌井委員：

なかなか整理されてきたなという気はしますが、開催期間を2期に分けることについて、ただ単に2期開催にしました、というだけではなく川崎のポリシーが必要ではないかと思ます。

ばら苑で秋、しかも、ちょうど10月の「都市緑化月間」でもある時期にやるのは賛成です。

しかし、バラが咲いているからやります、秋のランドスケープがあるからやります、では些か浅いと感じます。これは、たった今考えたものですが、バラには非常に“多様な品種”があり、そこにフェアが目指す“多様な参加のあり方”を掛け、市民と共有する目標として、バラを象徴的に用いる、かわさきフェアの一番のねらいは、いろいろなステークホルダーが参加することであり、そこにバラの季節にやる意味も重ねて表現できるのであれば、開催期間を2期に分ける意義があると思ます。

また、川崎市には、日本の縮図のようなランドスケープがある。中山間地、大都市、商業地、さらには大工業地帯というランドスケープの多様性、これは、非常に難しい都市マネジメントを要することではあるんですけど、ここでは、ランドスケープの“違い”をメリットと考え、どう繋いでいくのが非常に重要です。その繋ぎ方・繋がり方をテーマにする、つまり、各地域の特色を活かしつつ、相互に補完して繋がる社会を作っていく、こうしたことに意味づけをすることが必要ではないでしょうか。

単に2期に分けますではなくて、そこに意味を与えた方が、市民の方々もより納得するのではないのでしょうか。市長のポリシーとして“こういうまちづくりをしていきたい”という、皆さんに共感してもらえるようなメッセージを託すこと、川崎が持つ強みや課題を上手に表現することが、凄く大事なのではないか、ということが私の提案です。

2つ目は、川崎らしい先端技術が、計画骨子のどこに表現されているのか。コロナ禍のリモートワーク等を経て、我々はリアルだけでなく、バーチャルで繋がることにより、よりしっかりと知識を得られると気付きました。先ほど、私が繋ぎ方・繋がり方という形容をしましたが、これまでの緑化フェアでは、リアルな場所に行くことが前提だった。しかし、バーチャルで繋げることにより、ふと思いついたときに、パソコンを見れば展示の内容などが検索できる、また、川崎のまちのど真ん中にいながら、生田緑地が今どんな状況なのかわかる。各サテライト会場の情報がネットワーク化することが実現したら、川崎ならではの先端技術を活用した緑化フェアだとわかっていただけるだろう。そうしたことにご協力いただける市内企業はたくさんあると思うのです。また、場所の様子だけでなく、人の様子として、みんなが参加している姿をお互いに交換しあえる、その中で化学反応が起きる。

例えば、中山間地の方は、自分はいつも山の中で活動しているけど、たまには都市部の方で活動しようかなと思ひ、逆に、都市部の方は、川崎にこんな山の風景があるならボランティアとして参加してみようかなと思ひ。こうしたケミストリーな関係が出てくると緑化フェアに意味が生まれるのではないかというのが、私の提案です。以上です。

#### ○木村担当部長：

御指摘いただきありがとうございます。事務局でも色々検討し作成したものでございますが、浅いところで組み立てていた面もありますので、もう少し掘り下げ、しっかりまとめていきたいと思ひます。

ただいまのお話でも結構ですし、他にお気づきのことがあれば伺いたたいと思ひますがよろしいでしょうか。

そうしましたら、少し補足で説明させていただきます。もともと、本懇談会は基本計画について議論するために開催しておりますが、それを今回、基本計画“骨子”という表現に改めさせていただいております。これについて事務局から補足説明いたします。

#### ○藤島担当課長：

資料1の3枚目を御覧ください。右下のスケジュールに、令和3年度末に「基本計画骨子策定」と青枠で囲っている部分がございます。その後、令和4年と5年にかけて「基本・実施計画」という形でお示ししております。

基本計画“骨子”とした理由につきましては、行政が全てを決めるのではなく、令和4年度に設置を予定している「実行委員会」の中で、多様な主体に御参画いただきながら、基本・実施計画をとりまとめていく。これによって、行政だけで進めるのではなく、企業、市民、地域活動団体等の皆様と一緒に計画を作り上げていきたい。こうした思ひから、行政はあくまでも骨格となる方針をお示しして、その肉付けはみんなで一緒に考えていく、といった目的から基本計画“骨子”という形でお示しさせていただいた次第でございます。

#### ○木村担当部長：

前回の懇談会の際にも、早いうちから様々な方を巻き込んだ方がいいという、各委員からの御意見を踏まえてこのように考えたところです。前回のまとめのところで、反町委員から御意見いただいていたかと思ひますので、何か御意見やお気づきの事があればお願いいたします。

#### ○反町委員：

イラスト、イメージが入るとより具体的に見えてきてワクワクしますね。私は商店街の代表として参加しているので、協働推進に商店街も入れていただいて非常に嬉しく思ひます。

川崎ならではの、川崎だからこそという点を考えると、私は生まれも育ちも川崎で、本当に川崎が大好きで常に街のためにと考えているときに、同じ思ひや志を持っている方々が、自然に、必然的に集まっているようなことがあります。川崎には、イベントやまちづくりに携わる方がたくさんいらっしゃいます。商店街だけではなくて、いろいろな団体、企業、個人の方もいらっしゃいます。市の職員にも素晴らしい方がたくさんいると思ひます。そうした方々を一人も漏

らさず、くらいのつもりで、しっかりと巻き込んでいく。そのための情報提供などを今後行って、人を繋ぐことを頑張りたいと思います。

それから、川崎の魅力として、例えば、私の本業で言いますと、音楽のまちづくりが素晴らしい盛り上がりを見せているところですが、このほか映像のまち、スポーツのまちなどの全部を緑化フェアに繋がられると考えています。

緑の空間になじむ素晴らしい音楽、生演奏。映像においても、川崎でしか撮れないみどりの映像等あると思います。映像関係の会社も市内にあるので巻き込んで、YouTube等を駆使して展開していく。また、プロモーションなどのいろいろな形でのアウトプットにおいて、スポーツ選手などの有名な方、団体などを巻き込んでいく。大きな流れでいけると思うのです。令和6年度開催ということで、新型コロナウイルスの流行も徐々に収束し、リアルなイベントや活動が活発になってくると思うので、早い段階でいろいろな方にある程度の内容、情報を共有して一緒に同じ方向を向いてやっていくことが大事なのだと思います。以上です。

#### ○木村担当部長：

ありがとうございます。

いろいろな方をご存じということで、引き続きアドバイスいただけたらと思いますし、御意見いただきましたとおり、多様な人と活動が、フェアでうまく一緒に出来ることを見つけられればと思い「基本計画骨子」という事で、少し幅広にとれるように組み立てていきたいと考えております。

それでは、引き続き、委員の方々から御意見、御提案等を伺えればと思うのですが、前回は、端からという形にしたのですが、なかなか活発な意見交換をしづらくなるといけないので、少しブレイクしながら進めさせていただければと思うのですが、昨年も懇談会に参加していただいた今井委員が、前回欠席されているので、改めて、資料が変わってきているかと思いますが、そのあたりも含めて何か御意見等ございますでしょうか。

#### ○今井委員：

今井でございます。前回は欠席しまして申し訳ございません。

基本計画骨子案を拝見し、会場計画の項目について、いろいろな会場が挙がっていて個人的には嬉しいのですが、これをフェアで一気に盛り上げるとなると、開催中の運営管理等がしっかりできるのか、懸念があります。また、フェアで一気に盛り上げたはよいが、熱が冷めた後はどうなるか。フェアが終わった後でも、みどりのまちづくりは重要だと思います。

#### ○木村担当部長：

ありがとうございます。ただいまの御指摘について、概要版で言いますと1ページ目の右側、3番に示している「かわさきフェアを契機としたみどりのまちづくりに向けた取組」についてですが、開催中だけでなく、その前から、さらにはその先に繋がっていくような、そんな取組を考えていきたいという思いから記載しております。今井委員も現場をいろいろとご存じかと思うので、引き続き御指導いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

続きまして、御発言を頂戴したいと思いますが、どなたかいらっしゃいませんか。

### ○和城委員：

随分、まとまった上に具体性が出てきて、楽しみな骨子になっていると思います。

オール川崎で、ということで、すごく楽しみではあるのですが、こうしたイベントの中には、何でもかんでもこじつけで全部参加してしまうケースがあると思います。物販、交通、技術などフェアに係るすべてのものについて、基本理念に沿ったものを選び、ハンドリングしていくことはすごく難しいですが、すごく大事なことになると思います。

この点について、SDGs の理念は割とがちり固められていて、例えば、この部分に賛同して、この部分を実施していくことが SDGs だ、というのが詰まっていて、よくできている。

かわさきフェアにおいても、基本理念をより具体化し、わかりやすくした共通コードのようなものを、公開するにしろ、内部検討で用いるにしろ、作っていった方がよいかと思います。「緑化フェア」と掲げただけでなんでもあり、とすると少しまずいように思います。

### ○木村担当部長：

ありがとうございます。幅広に捉えていきたいと申し上げてきたところですが、それだと逆に散らかってしまい、本来の趣旨が取り残される危険が確かにございますので、御提案を踏まえて検討したいと思います。

前回の懇談会の時に、池田委員からも、環境の観点から指標をとの御意見を頂戴し、具体的な部分が今回の資料には反映しきれていないのですけれども、そのあたりの角度から何かありますでしょうか。

### ○池田委員：

前回、私が言った、カーボンゼロに向けた取組に具体的な目標があるとよりわかりやすいのでは、という意見に関して、考慮していただきありがとうございます。確かに、難しいところだと私自身実感しています。

例えば、SDGs では 17 の目標の下に、さらに小さな目標が設定されていて、現状と、何年後までに達成する目標というのが定量的に表されている。そうしたことをフェアにおいても、例えば、現状がこうだから、具体的にこうしたらもっと緑が増える、のように示す。現状を基準として 2050 年のカーボンゼロに向けた具体的な指標のようなものがあると、よりわかりやすくなるのではないかと思います。そこが基本理念から逸れないのであれば、ぜひ考慮していただきたいと思います。

また、いろいろな人を巻き込むことについて、ぜひ、大学生を巻き込んでほしいと思います。環境問題や緑化フェアのような取組は、今の若い世代にとってアツいテーマですし、ボランティアでもすごく多くの人に参加しているジャンルでもあります。コロナ禍で、サークルをはじめとした活動がすべて止まっている現状があるので、フェアを機に、若者が新たな文化を作っていくような感じで、また、どんどん大学生や団体を巻き込んで、ムーブメントのような感じで、団体活動の継続や、若者がどんどん盛り上がる形に繋がったら、持続的な取組になるのではないかと思います。

**○木村担当部長：**

私は、だいぶ学生から遠くなってしまっているのですが、どうやったら若い方に興味を持っていただけるのか、何かアドバイス等ございますでしょうか。

**○池田委員：**

まず、我々ゼット世代と呼ばれる人たちは、環境問題にすごく関心が高い世代と言われております。僕自身、ボランティアセンターに通っていたこともあるし、サークルや研究室単位で活動している人達もいます。大学を巻き込むのであるならば、研究室、緑・農系サークル。市内には明治大学農学部や専修大学などがあるのですが、最近、そうした活動が止まってしまっている。

また、「かわさき若者会議」などの、盛り上がりを見せている若者の団体にアプローチすれば、横に広がりやすいのではないかと思います。

**○木村担当部長：**

同世代として蕪木委員はどうですか。

**○蕪木委員：**

私も同じように、若い世代はボランティアや地域活動に興味ある方が多いと思っています。しかし、実際は気軽に参加できない、知る機会が少なかったり、得られない面もあると思うので、フェアをきっかけに、地域の活動を多くの市民が知って、新しい繋がりや出会いが生まれ、若者が繋がれるようになったらいいのかなと思います。

フェア後も継続的に関われる環境づくりや、若者にもさらに広く知ってもらえる機会の提供を大事にしていけたらいいのかなと思います。

開催期間を春と秋にしたことについて、この季節は川崎の魅力がより伝わりやすいと思っています。例えば、春は二ヶ領用水の桜、秋はおいしい農作物などのように、川崎のみどりの良さなどをPRしやすいと思います。そのため、それぞれの時期にサブテーマのようなわかりやすいものを掲げたらいいのではと思いました。

また、駅周辺の公共空間を活用した取組に加えて、駅から会場までの道も、みどりで会場に導かれるような、歩くのが楽しい空間になると良いと感じました。フェア後も日常の景観として残せる取組があれば良いと思います。また、こうした物理的な繋がりのほか、各エリアが繋がるような、ストーリー性があり、すべてのエリアを回りたくなるような工夫が出来たらと思いました。

さらに、各会場のコンセプトは、もう少しキャッチーなものにしてみたらどうでしょうか。例えば、歴史や自然を体感できる生田緑地のエリアは、冒険したくなるようなイメージから“川崎アドベンチャーフィールド”や“川崎フォレストゾーン”などを掲げると、子どもたちの心もつかみ、集客も増えると思います。川崎のイメージの変革になるように、各エリアのインパクトを強めていけたら良いと思います。“川崎＝臨海部”だけではないのだと、市民の方々の意識の変化に繋がるきっかけになると良いと思います。



**○木村担当部長：**

いろいろと御提案いただきありがとうございます。参考にさせていただき、進めていければと思います。市内の魅力を知りながら、楽しく歩けるようにという点で、萩原委員も前回、例えば、マップで楽しく紹介しながらなどの御提案を頂戴しており、共通する御意見かと思います。萩原委員、何かございますでしょうか。

**○萩原委員：**

ぜひ、3会場とその周辺を楽しめるようなマップがあると良いなと思います。先ほど、涌井先生が言われたように、バーチャルでも見られるのはとても良いことなので、技術を持つ企業が川崎市にございますし、皆さん喜んで参加して下さると思います。この資料にも、バーチャル会場が出ていますが、3会場を繋ぐことや、川崎のいろいろな素敵なお店、みどりいっぱい映像をスマホでも見られるというのはとても素敵だと思います。そこに行ってみたいと思うし、そこに人が興味を持ち、訪れることで、例えば、商店街のお菓子屋さんが緑化フェアにちなんだ商品を作って、訪れる方に喜んでいただくとか。そうした商店街や、レストラン、お土産物屋さんなどが一緒に盛り上がるようなまちになると良いなと思います。

何かのきっかけで、みどりが大切と認識し、フェアを契機に、次の100年について考えるようになれば素晴らしいことだと思います。

また、大学生だけでなく小・中・高校も絡んでいくと、親世代も連れてきてくれるのではないかと思いますし、これからの川崎にとっても大切なことだと思います。良いきっかけになればと思います。

**○木村担当部長：**

ぜひ、良いきっかけにしていきたいと思います。

まだ、発言のない方、ぜひ御意見を頂戴したいのですけれども、渡辺委員いかがですか。

**○渡辺委員：**

皆さんの御発言を整理されて見えてきたと思います。

協働や共創の推進は、言葉で書くのは簡単ですが、実体づくり、多様な方に参画してもらうには仕組みがないと難しいです。だから、それにチャレンジしていくのは良いし、トップ項目として協働推進が出てくるのが良いですね。普通の計画だとおまけのように最後の方に出るものなのです。協働推進を前提に、川崎の新しい仕組みを作る、挑戦するきっかけがこのフェアだと感じました。

私が発言しました、ヒューマンインフラ、デジタルインフラ、グリーンインフラ、この言葉そのままでもよいのですが、これらのことについて。デジタルに係る意見がありましたが、手段のデジタルだけでは駄目で、かわさきフェアにおいては、デジタルを戦略的にインフラにしていくトライアルと捉えて、一本筋を通す必要があります。運営やエンターテイメント、商店街などを繋いで、それらをインフラにしていくこと。フェアだけでなく、都市にもどのようにデジタルインフラを組み込むか。この点は、戦略的にしていかないと駄目だと思います。

ヒューマンインフラの意味は“仕組み”だと思っています。多様な人材が協働・共創する一つ

の仕組みをしっかりと作り上げること。これが川崎として運用・応用されていくには、何か場がないと出来ないの、フェアはヒューマンインフラ、グリーンインフラの構築にとって、千載一遇の機会です。単なる誘客に繋がるという答えではないです。仕組みをインフラと言った以上はそういうものを目指していく必要があります。

最後に、資金や予算の話として、協働パートナーを募れば参画してくれる人はいますので、行政が全てお金を出す必要は全くなくて、協賛・協働パートナー、事業パートナーなどを募る形にした方がよいと思います。

本懇談会が始まる前に大学で授業をしてきました。テーマはソーシャルデザインです。特に今日は、社会変革に備えた都市デザインについてセッションをしました。芸術から都市をどうデザインしていくのか、このキーワードとして STEAM (Science, Technology, Engineering, Arts, Mathematics) があります。私の大学では、STEAM 教育を進めており、縦割り構造をリノベーションさせています。文系、理系、芸術系と分けた方がわかりやすいかもしれませんが、もうそういうものではなく、ボーダレスで、大学内だけで完結せず、多様なものがコラボする。こうしたことを「KYOTO STEAM」として進めており、川崎においても、都市構造が全く違うので京都の真似をする必要はないですが、STEAM を取り入れるなどの検討をされると良いかと思います。

#### ○木村担当部長：

ありがとうございます。仕組みづくりを俯瞰的に整理していきたいと思います。

教育分野のお話がいくつか出てまいりましたけれども、長井校長、資料を見て、または委員の皆様のお意見を聞かれて何かお気づきのことや御意見などいただけますでしょうか。

#### ○長井委員：

よろしく願いいたします。川崎市の校長会の会長をしています、小杉小学校校長の長井でございます。前回、緊急事態宣言延長の関係で欠席させていただきました、申し訳ございません。

川崎市の市制 100 周年まであと 3 年ということで、そうなのかと、今の 3 年生が 6 年生の時に 100 周年なのだと、何が出来るのかなと思いをもちながら、教育の観点から、今日、お話を聞かせていただきました。せひ、単発的なイベントで終わらず、子どもがみどりに親しみながら育てほしいなと思っております。

小杉小学校は、開校 3 年目で、周辺には一切、土がありません。校庭は人工芝です。私は今年度に日吉小学校から異動してきたのですが、日吉小は、夢見ヶ崎公園のふもとにありまして、まさに資料に載っている花植え活動にも参加しておりました。小杉小学校には、タワーマンションに住んでいるお子さんが沢山いらっしゃるの、ほとんどの子が靴をまったく汚さずに学校に来ます。先日、多摩川に行った際、「先生、アリを初めて見ました」と言われて驚きました。ダンゴムシも初めて見たと言って、カマキリやバッタと同じように、ダンゴムシを大事に容器に入れて学校に戻りました。これが、今の小杉に住む子どもたちの姿なのだと思います。

小杉小学校には花壇がありません。教材園となっているのが、校舎のベランダで、各学年 5 m<sup>2</sup> くらいのスペースしかございませんので、1 年生がアサガオを植えますと、大事に大事に育てます。雨が降っていてもお水をあげます。種が出来て、枯れているからお水をあげなくてもいいと言っても、もしかしたら咲くかもしれないと一生懸命お水をあげていました。

決して単発で終わらないでほしい、と申し上げましたが、教育の中にどう計画的に取り入れていったらよいのかなと思いました。私は麻生区、宮前区にも赴任経験があります。それぞれの学校が、地域の方と一緒に里山づくりなど様々な活動されていることを知っております。小杉がこれからのまちとして、フェアでは、等々力緑地が会場になっていますが、子どもたちがどのように参加できるのか、単なるお花を植える事だけでなく、どうしていったらいいのかな、と皆様の御意見をお聞きしながら考えておりました。学校としては、たかだか3年なのですが、SDGsや総合的な学習、教育過程の中で、どのようにしていったら良いのか考えさせていただきました。

#### ○木村担当部長：

ありがとうございます。確かに、市内でも子どもたちの環境は地域によって違って、自然との関わりも距離感がまちまちだと思います。是非、色々と繋ぎ合わせられたらと思っておりますので、そういった観点からも御意見をいただければと思います。土に触れるということで、前回、蕪木委員から農作物などのお話がありましたが、土や緑に触れる入り口として、食べ物があると思っております、田代委員からも、前回の懇談会で御意見をいただいたかと思うのですが、御発言いただいてもよろしいでしょうか。

#### ○田代委員：

JA セレサ川崎の田代です。よろしくお願いたします。

前回の懇談会で、公園の農的利用や、市民が花や植木に触れる機会になれば、と意見をあげましたが、今回の基本計画骨子案に取り入れていただいております、ありがとうございます。

ぜひ、一人でも多くの市民が、緑化フェアを通じて、川崎の農業に触れて、川崎農業の応援団という形で、都市農業を皆さんに支えてもらうきっかけになればいいなど、思っています。

前回の懇談会では、開催時期が3月から4月と言うことで、通常ですと栽培している花がない時期となり、農協内でも相談などしまして、開催時期に合わせた栽培管理が必要かと考えておりました。今回の資料では、10月～11月と3月に分かれたことにより、例えば、10月ですとパンジー、ビオラなどの花苗や、切り花もケイトウなどがあるため、いい時期なのかなと思います。3月は、時期をずらして花を咲かせることになるのですが、生産者は通常やらないことなので、今から試験栽培に取り組む必要があるかと思っております。令和6年度の開催まで、試験栽培の機会は今年度含めると3回しかないので、生産者と農協で力を合わせて進められればと思っております。

これについて、フェアでどのような花や植木が必要になるか、花苗や、切り花、枝ものもあるので、どういった植栽イメージや規模・量を想定されているか、具体的にわかってくると、それに合わせて生産者と協議ができます。

#### ○木村担当部長：

ありがとうございます。具体的な花のイメージはまだありませんが、時間が限られる中で、細やかな意見交換が出来たらと思っておりますので、御協力をよろしくお願いいたします。

前回、鈴木委員からは、川崎のみどりや多摩川の観点から御意見をいただきましたが、これまでの委員の皆様からの御意見等を踏まえて、または何かお気づきのことなど、御意見等いただけますでしょうか。

### ○鈴木委員：

商工会議所の鈴木でございます。涌井先生に教えていただきながら、細長い川崎のみどりの面からアプローチしつつ、皆さんに愛される土地、みどりのテーマを常に意識しながら、川崎のみどりの祭典に携われて幸せな時間だと思っています。

以前、札幌で景観のイベントがあり、涌井先生にガイドいただきながら、電波塔のすぐそばにある「さっぽろ創世スクエア」や緑の再編事業等を見学しました。多くの方々がそこで事業展開や将来に向けた土地利用の検討などをされていることを知り、川崎においても緑豊かなエリアをはじめ色々な顔があって、緑の再編をやめることなく、常日頃から、こうした動きが市民の中に定着してきているのかなと思っています。引き続き、皆さんの知恵とお声を聞きながら川崎の緑を再編したいと考えておりますので、いいお話がありましたら、ぜひ教えていただきたいと思えます。川崎は皆さんが思うよりも、はるかに緑が豊かな場所だと思っていますので、引き続きよろしくお願ひします。

### ○木村担当部長：

ありがとうございました。

ひと通り、委員の皆様から御意見等をいただいたところですけれども、市長、これまでの感想などございましたら、伺いたいと思ひます。

### ○福田市長：

皆様、御意見をいただきましてありがとうございました。皆様の共通した意見として、大学生も、子どもたちも、あらゆる世代、職業の方も、いろいろなステークホルダーを巻き込む、という話がありました。様々な方を巻き込むにあたり、単に“楽しい”のみで人が集まるか。そうではないと思ひます。先ほど、和城委員からもお話がありましたように、この旗の元に、という明確な理念とメッセージがあって、こういう事をやるから、意義があるからみんなでやろう、というところに人が集まるのであって、そこが不明確なものには、大学生にいくら呼びかけても多分刺さらないと思ひますし、誰もやりたがらないと思ひます。ですから、そこを、実施計画レベルで具体的にと言ったときに、より明確になってくるのではないかと思ひます。

涌井先生がおっしゃった、なぜ2期開催なのか、ということも、位置づけや意味づけをしっかりとというお話は、かわさきフェア全体に通ずるお話であると感じました。長井先生のおっしゃった小学生は小学生なりの、中学生は中学生なりの、高校生は高校生なりの、地域のみどりと言ひ言っても、捉え方やできることが違ってくるので、それぞれの世代にブレイクダウンするためにも、具体的な取組に理念がそれぞれ紐づいていないといけなひ、と皆様の御意見を伺ひながら改めてそうだなと思ひました。

DXの話もありましたけれども、川崎の特徴である先端技術と緑や農などをどううまく結びつけられるか。川崎だからできることという、可能性は見えてはいますが、具体的な戦略をもっと磨いていかないとはいけなひかと思ひます。

### ○涌井委員：

長井先生の話に非常に感動しました。現在、私は、岐阜で“靴を脱いで裸足になろう”という取組をやっています。足の裏は重要な感覚器官ですが、靴を履くようになり扁平足などになっている。文明化するにつれ、生物としての感覚が衰えていきます。

例えば、最近問題になっている“高所平気症”という、4歳から5歳までの間に高いところに住むと、高さが怖くなくなり、ベランダから乗り出し落ちてしまう例。今、我々がチャレンジする必要があるのは、リアルな生き物としての人間と、バーチャルな世界のバランスをどう取るのかであると思います。これにあたり、一番アクセスがしやすいのが、花や緑や農の世界、食の世界だと思います。それらのリアル感に触れながら、我々は生き物なのだということに帰る必要があるかなと。

先日、脳生理学者と、クリエイション、創造性がどこで生まれるかという話をしました。人間の脳は、前頭葉と大脳新皮質、いわゆる本能と知性の両方のケンカを仲裁する構造になっている。しかし、現代人は、情動を抑えすぎて、このコントロールがうまくいかなくなっている。時々、爆発したり、抑え込んだりしてしまって、生理障害になっている。実は、本能と知性のうまい関係がクリエイションに繋がるものであり、それを、子どもの時に形成するのが大事です。未来の産業は、クリエイションから生まれてくると考えます。本能と知性の良好なバランスをどうやって作るのが非常に大事で、この点においても、緑化フェアは自然にアクセスしやすい入口として非常に意味があると思うのです。

また、今年と来年とは全く違う年で、文明が変わるかもしれないと考えます。つい先日、「昆明宣言」という、生物多様性の国際的目標がCOP15で採択されました。「昆明宣言」では、(COP15の第2部である)今年の年末から来年の春にかけて、我々が国際社会でどうやって環境問題と真剣に向き合っていかなければいけないのかという、方向性が示されました。

そのベースとなる考え方がNbS (Nature-based Solutions) で、社会的な共通課題を自然というフィルターを通して考えていく、グリーンインフラもその一環です。今までは、営造物だけで災害などに対応してきたが、もう一度自然に問いかけて、自然の知恵を借りながらコントロールしていく。そういうインフラの作り方をしていかなければ駄目だよと、同時に、里山のシステムのように、自然の管理に手間をかけることによって、文明化により、自然から離れた人間をリアルな世界、生き物だという世界に戻そうという相乗効果が生まれると思います。そういう文明を構築していかなければ駄目だよ、という方向性が「昆明宣言」で明確にメッセージとして国際社会に発信された。こうしたこともしっかり受け止めて、我々の共通の社会課題なので、川崎をどうするんだといったときに、この緑化フェアの中にミッションがあるような気がしてならない。

バラが咲いてるから、この時期にやろう。そういうことではなく、どういう旗を掲げて、どういう理念の中でみんなが考えていくのか。骨子なので、その点を十分に強調しておかないと、各論に入ると楽しい話の方に分散してしまう。それはそれでいいけれど、何の為にこれをするのかという疑問が出てきたときに、答えが出るようにしてほしいなと。

### ○木村担当部長：

まだ、時間がございますので、もっといろいろな御発言を賜ればと思います。

なお、福田市長はここで退席となります。

### ○和城委員：

色々なお話を伺えて、大変勉強になったのですが、長井先生のお話で、土を見ずに、靴が汚れずに学校に行く子どもというのが衝撃的でした。

私も実は、横浜の高層マンションに住んでいて、うちの子どももそうだなと。涌井先生のおっしゃるように高所平気症かもしれない。大人と、5歳とか10歳の子どもたちが考えている自然とか、花とか、虫とかは、全然違う景色が見えているのかもしれないと思いました。

うちの子を、夏に熊本の阿蘇の農家に3週間くらい預けています。また、近くのマンションに住んでいる子どもは、異常なくらい蟬取りをしている。蟬は比較的たくさんいるので夏のアクティビティとして喜んでいると思うのですが、身近には虫が蟬しかいないけれど、図鑑を見ると無限の種類の子どもがいるわけで、若い子の視点が、将来10年後20年後の社会になるかもしれないので、そういった視点が入ればいいのかと思います。川崎の中でも、特殊な環境にいる子どものお話になるかもしれませんが、世代の視点というのはあるかなと思いました。

### ○木村担当部長：

お子さんの絡み方やその視点などは、我々も見落としがちであったり、気づかないことが多いかと思いますが、長井先生、みどりとの関わりという観点で、次のきっかけや何かお気づきのことなどございますでしょうか。

### ○長井委員：

各学校で様々なみどりの取組をしていると思います。例えば、地域の方に支えられながら、畑づくりや収穫体験など。ただ、コロナ禍で収穫した物は食べられないなど、活動の制約がどこの学校にもあります。本当だったらみんなで食べるまでが教育ではあるのですが、今後、コロナの流行が収束すればできるようになるのかなと思っています。

食物が育つということ、虫が生きているということは、大元となる土の概念が大事で、子どもたちの様子を見てみると、土に触れるととても心が落ち着くようなのです。とても多動な子ども、火を見ると興奮しますが、土に触ると静かになるのです。そういった機会を取り入れるなど、教育課程も工夫しなくてはいけないところなのですが。

先ほどの、本能的と言うのは、すごく納得できるところで、理由がないけど落ち着く、子どもたちはそういうものにも興味を持つ。かつての子どもたちはそうやって落ち着いてきたのかなと思うのですが、現代の子たちはそうした機会が少なく、さらに、コロナ禍でどんどん状況が悪くなっているところです。砂場に種を植えれば芽が出ると思っています。そういう意味で、生きるために何が必要なのか、今はSGDsという入り口が出来ているから、そこから行こうかなと思いますし、今までやってきた各校の取組も丁寧に整理すると何か方向性が見えてくるのかな、と思っています。

### ○木村担当部長：

ありがとうございます。実際に、子どもも生活する中で、土に触れる機会が確かに減っていますので、子どもたちもそうなのだなと改めて思いました。

他にいかがでしょうか。土に触れるキーワードから今井委員、どうですか。造園業という中で、

一般の方と直接コミュニケーションをとる機会は少ないかもしれませんが、現場を見ていて、公園や緑に関わる部分で長く見ていらっしゃると思うのですが、子どもたちの公園の使い方が変わってきているとか、そのような体感をしたことなどでもけっこうなのですが、緑と土と子ども達、あるいは大人でもいいのですけれど、お気づきのことなどございませんでしょうか。

**○今井委員：**

コロナ禍以前から公園で遊ぶ子どもが少なくなっています。私が子どもの頃に比べると、昔は、遊ぶ場所は公園や学校の校庭などしかなかったのですが、今は、家でゲームなどでも遊べるようになった。公園で泥だらけで遊ぶようなことが少なくなっている、もっと自然に触れて、木に登ったり土を掘ったりして遊んでもらいたいと思います。

**○木村担当部長：**

ありがとうございます。私も、公園に携わる仕事をずっとやってきていますので、子どもたちにもっと公園で遊んでもらう、それも、みどりや土に触れる機会になるよう、このフェアを繋げられないかなと思っています。

他にいかがでしょうか。御意見をいただければ、事務局が汗をかいてまとめますので、突飛な御意見でも結構ですので、何かございませんでしょうか。

**○池田委員：**

どうしたらカーボンゼロに向けて、この緑化フェアを繋げられるか。緑化フェアを行うことによって、少なくとも緑が増えたり、農に携わる人が増えたりする。カーボンゼロを目指すのは難しいことだと思うのですが、緑化フェアを行うことにより、どれくらいの二酸化炭素が吸収されたかなどは定量的に示せると思います。緑化フェアにより、地産地消が増え、地元の農家さんの農作物を食べることによって、輸送に関わる二酸化炭素・フードマイレージが減る。二酸化炭素を減らす方法と吸収する方法。緑化フェアを行うことによって、カーボンオフセットのように総量が減る、吸収されていく方法も定量化できるのではないかと感じています。2050年のカーボンゼロに向けて、どういうふうに繋がっていくのか。緑化フェアで、緑が増えていくことによって、楽しく華々しいものであるとともに、二酸化炭素などへの影響も表すことができるのではないかなと思いました。

**○木村担当部長：**

ありがとうございます。少しわかりやすい指標みたいなものは、工夫していきたいと思います。他にいかがでしょうか。

**○反町委員：**

いろいろな人を巻き込むこととして参加型、フェアの会場に行くことも参加なのですが、それ以外の形で、一方通行ではない参加の仕方が必要だと思っています。いろいろな形があると思うのですが、非常にベタではありますが、写真コンテストのような、市民が見つけた川崎のみどりの魅力を写真で紹介していただいたりとか、自分のみどりに関する取組を紹介していただいた

りなど、テーマをいくつか設けて参加型にする。コンテスト形式にして、自分で応募したり、他の作品を見たりすることにより、イベントに対する思いが強くなるのかなと思います。さらに、例えばコンテスト開催の際に、大学生の方にプロジェクト運営をお手伝いいただく、あるいは任せる、みたいなことも面白いと思いました。

もう一つ、参加型として、ワークショップ。いろいろなやり方があると思うのですが、幼児や児童でも参加できるものがよいと思います。土に触れあう機会がないならば、土にすぐく触れ合えるようなワークショップ。専門家に監修していただき、良い効果を得られる内容、子どもの意識や未来に繋がるようなワークショップが出来たらいいのかな、と思います。

**○木村担当部長：**

ありがとうございます。今、お伺いしたようなことは、具体的に考えていくところで、我々もイメージを持ちながら作ってきているつもりでございます。是非また、お知恵をお借りできればと思います。

**○蕪木委員：**

土に触れるということに関して思ったことですが、私は、宮前区出身で、近くに都市農地があったので、小さい時から裸足で遊んだり、土に触れて遊んだり、本能的に遊ぶ経験が来ていました。公園の遊具とは違う楽しさがあって、好きなように本能的に遊んでいたもので、緑地や都市農地には、子どもが本能で体を動かせる機能があると思います。今は、マンションに住む子どもたちや、コロナ禍によって家で過ごす子どもたちが増えている。普段の生活において、緑地や都市農地を身近に感じられないと思うので、緑化フェアをきっかけに、子どもたちが緑地や都市農地の貴重な資源に触れる機会になれば良いと思いました。

**○木村担当部長：**

ありがとうございます。いろいろなきっかけにしていけたらと思っています。他によろしいでしょうか。特に無いようであれば、時間が迫ってまいりましたので、次に行かせていただきたいと思います。

**【(5) その他】**

**○木村担当部長：**

それでは、次第5「その他」でございます。本日、皆様からいただきました御意見等を踏まえまして、事務局で基本計画骨子案を作っております。その後、11月末に基本計画骨子案を公表し、約1か月間パブリックコメントを行う予定でございます。その後、その結果を踏まえまして来年の2月7日に第3回の懇談会を開催し、その場で基本計画の骨子を固めたいと思います。委員の皆様におかれましては、お忙しい中とは存じますが、引き続き、御協力の程、よろしくお願いいたします。

それでは、閉会にあたりまして、磯田局長より御挨拶をお願いしたいと思います。



## 【(6) 閉会】

### ○磯田局長：

本日は、皆様、貴重な御意見をいただきありがとうございます。

ダンゴムシから気候変動の話まで、改めて、委員の皆様の緑化フェアに対する関心の高さ、期待の大きさを実感したところでございます。開催までもう3年しかない中で、基本計画骨子の策定作業と並行して実動に向けた動きをいくつかの方面で始めていますので、御相談等をさせていただくことがあるかと思いますが、その際にはどうか御指導いただければと思います。本日は長時間にわたりありがとうございます。

### ○木村担当部長：

それでは以上を持ちまして「第2回全国都市緑化かわさきフェア基本計画懇談会」を終了いたします。

本日はお忙しい中、本当にありがとうございました。

以上